

Economic Indicators

発表日: 2023年9月29日(金)

鉱工業生産(2023年8月)

～生産は停滞感の強い状況が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

(単位:%)

	鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財		
	生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷		
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	
22年	1月	▲0.8	▲0.7	▲0.9	▲1.8	▲0.5	5.9	1.3	6.4	1.5	7.7	▲1.0	▲5.0
	2月	1.3	0.0	0.6	▲1.9	1.8	8.6	0.5	8.7	▲2.2	1.1	0.5	▲3.6
	3月	▲0.3	▲1.6	0.7	▲2.7	▲0.4	7.9	▲0.1	10.0	0.4	5.9	▲0.5	▲5.6
	4月	▲0.4	▲4.7	0.3	▲4.6	▲3.5	4.4	▲1.6	8.0	2.2	▲0.6	0.7	▲5.6
	5月	▲4.4	▲2.7	▲3.8	▲3.3	0.5	4.5	3.4	8.5	0.1	2.2	▲1.0	▲3.4
	6月	5.0	▲3.0	3.2	▲3.3	1.5	4.7	▲0.7	8.6	2.3	2.6	1.4	▲3.2
	7月	0.6	▲1.8	0.7	▲2.1	0.7	5.1	1.4	10.4	4.5	9.6	1.1	▲1.5
	8月	1.4	5.7	0.8	5.5	1.1	6.2	▲0.3	4.9	5.8	18.8	▲0.5	8.9
	9月	▲0.5	8.7	▲0.7	9.6	1.7	6.2	2.8	5.0	▲5.4	13.4	▲0.3	18.0
	10月	▲1.7	3.1	▲0.6	4.7	▲0.2	5.0	▲1.5	3.7	▲1.7	10.6	1.5	7.2
	11月	0.0	▲1.4	▲0.4	▲0.8	0.0	3.5	1.3	6.6	▲3.9	2.5	▲0.9	1.9
	12月	▲0.6	▲2.2	▲1.2	▲3.1	▲0.1	2.7	2.2	10.5	2.7	3.9	0.2	0.0
23年	1月	▲3.9	▲2.8	▲3.2	▲2.9	▲0.7	2.4	2.0	9.6	▲10.6	▲5.2	▲2.5	1.2
	2月	3.7	▲0.6	4.3	0.7	1.0	1.6	▲1.6	5.9	7.2	2.2	4.9	4.1
	3月	0.3	▲0.8	0.9	0.0	0.4	2.3	1.3	8.8	▲1.8	▲0.1	0.8	5.5
	4月	0.7	▲0.7	▲0.2	▲1.3	▲0.1	6.0	1.8	12.5	1.1	▲2.9	0.7	3.9
	5月	▲2.2	4.2	▲1.1	4.0	1.8	7.3	1.5	8.8	2.6	3.0	1.6	9.9
	6月	2.4	0.0	1.6	0.8	0.2	5.9	▲0.8	10.3	▲0.6	▲1.5	▲1.6	5.0
	7月	▲1.8	▲2.3	▲1.8	▲1.7	0.6	5.7	1.0	9.8	▲4.6	▲10.2	▲0.6	3.2
	8月	0.0	▲3.8	0.1	▲2.4	▲1.7	2.8	▲1.7	8.4	1.5	▲13.8	▲0.5	3.2
	9月	5.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	10月	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)23年9月、10月は、製造工業生産予測調査の数値

○8月の生産は前月比横ばい

経済産業省から公表された23年8月の鉱工業生産は、前月比0.0%の横ばいとなった。経済産業省の予測指数補正值(前月比▲1.4%)や事前の市場予想(前月比▲1.1%)は上回る結果となったが、前月の落ち込み(7月:前月比▲1.8%)から回復には至らず、生産は横ばい圏での推移が継続している。業種別には、石油・石炭製品(前月比+5.5%)や電気・情報通信機械(同+1.0%)が上昇した一方で、自動車を含む輸送機械(同▲4.0%)、汎用・業務用機械(同▲1.0%)等が足を引っ張った。自動車工業については、これまでの好調からの反動に加えて、8月下旬には大手自動車メーカーのシステムトラブルによる工場稼働停止も重なり、単月で大きい落ち込みとなった。

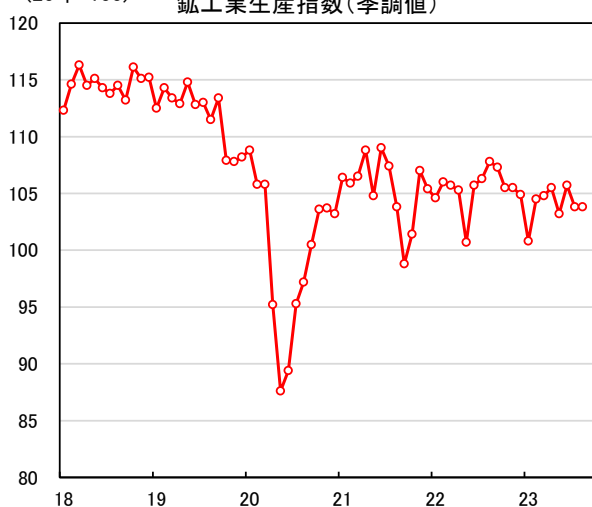
○7-9月期は前期比横ばい程度に留まる公算。先行きも不透明感が強い

同時に公表された製造工業予測指数は、9月が前月比+5.8%、10月が同+3.8%となった。予測指数の上振れバイアスを考慮した経済産業省の補正試算値でも9月は同+3.7%の上昇が見込まれており、9月、10月ともかなり高い伸びが計画されている。ただし、仮に9月が経産省試算値通りとなっても、7-9月期は前期比+0.3%と小幅の増加に留まり、生産が増産基調に転じたとの判断はまだ

できない。

また、9月、10月の生産計画を押し上げているのは、部品供給不足が緩和したことで好調さが続いている輸送機械（9月計画+8.1%、10月計画+5.3%）であり、それ以外の業種では一進一退の状況だ。生産用機械（9月計画+10.2%、10月計画▲0.5%）、電子部品・デバイス（9月計画▲2.2%、10月計画+11.2%）も、生産計画は強気なもの、需要の動向に不安が残る中で、実際には下振れる可能性が高いだろう。8月の実質輸出でも示されているとおり、足元では自動車を除く輸出の減少傾向が続いているなど、海外からの需要は冴えない。米国、欧州の製造業部門の景況感悪化や中国経済の低迷が続く中、米中貿易摩擦の影響による輸出規制強化など政治的な要因も加わり、輸出がさらに抑制される可能性もある。輸出の下押しによって、生産も順調に持ち直していく姿は展望しがたく、先行きの景気に不透明感が強い中で停滞が強い状況が続く可能性が高いと予想している。

(20年=100) 鉱工業生産指数(季調値)



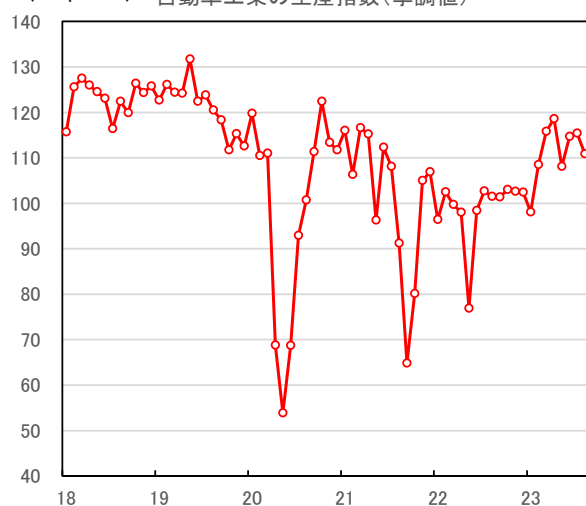
(20年=100) 生産用機械工業の生産指数(季調値)



(20年=100) 電子部品・デバイス工業の生産指数(季調値)



(20年=100) 自動車工業の生産指数(季調値)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

